

こども芸術カンパニー「OGATSU x」の活動報告

― 子どもを軸とした学校・地域連携によるものづくり及びまちづくり ―

松井 利夫・早川 欣哉

はじめに

本研究ノートは、京都造形芸術大学「こども芸術の村」プロジェクト⁽¹⁾の一環として、二〇一六年度から二〇一八年度までの三年間、宮城県石巻市雄勝町で実施された、『こども芸術カンパニー「OGATSU x」』の一連の活動報告である。

こども芸術カンパニー「OGATSU x」は、石巻市立雄勝小学校の子ども達による、地域資源を活用した商品開発をおこなう仮想の会社である。学校、地域住民、行政、専門家、ギャラリスト等と共に、子ども達のアイデアを形にして販売する仕組みの構築と、それによる産業振興や観光振興等の地域活性化を通して、子ども達に対する、ものづくりを起点とした社会参画の機会の提供を企図した。さらに、地域資源の再発見やそれらを用いた創造によって生業が生まれることを体験し、子ども達の将来の職業選択の幅を広げたいと考えた。

第一章では、本活動の舞台となる宮城県石巻市雄勝町及び石巻市立雄勝小学校について概要をまとめた。第二章では、こども芸術カンパニー「OGATSU x」の活動の背景、目的、対象と体制及び活動内容について述べる。第三章では、こども芸術カンパニー「OGATSU x」の三年間のワークショップについて報告する。最後に、本活動の今後の展望について述べる。

一、宮城県石巻市雄勝町及び石巻市立雄勝小学校について

(一) 宮城県石巻市雄勝町の概要と産業

宮城県石巻市雄勝町は、宮城県北東部に位置し、石巻市域の中でも太平洋に面した沿岸部の町である。現在の基盤は、一八八九年に敷かれた町村制により十五浜村として成立し、一九四一年に雄勝町と改称した。その後、二〇〇五年に一市五町が合併し、宮城県石巻市の一部となった。

主な産業は、ホタテ等の養殖を中心とした漁業と、雄勝玄昌石（雄勝石）と呼

ばれる雄勝地域で産出する粘板岩を用いた硯や屋根材（スレート）の製造業である。

(二) 石巻市立雄勝小学校の概要、東日本大震災の被災状況等

石巻市立雄勝小学校は、一八七三年に「第七学区第二中学区八十番小学校」として開校し、二〇〇五年の市町合併により、「石巻市立雄勝小学校」に改称後⁽²⁾、二〇一七年三月に閉校した。現在の石巻市立雄勝小学校（以下「雄勝小学校」とする。）は、二〇一七年三月に閉校した石巻市立雄勝小学校（以下「旧雄勝小学校」とする。）と石巻市立大須小学校（以下「旧大須小学校」とする。）を統合し、小中併設の新設校として、二〇一七年四月に開校した。

児童数は、一九四六年度の一一八二名をピークに減少に転じている。二〇一〇年度には一〇八名であったが、東日本大震災後の二〇一一年度に半減し、四一名となった⁽³⁾。その後も減少は続き、二〇一六年度は十六名⁽⁴⁾、新設校となった二〇一七年度は二〇名⁽⁵⁾、二〇一八年度は二一名⁽⁶⁾であった。

旧雄勝小学校は、二〇一一年三月の東日本大震災による津波が二階建ての校舎を超え、全壊となった⁽⁶⁾。二〇一一年四月に石巻市立河北中学校に移転した後、二〇一三年四月から二〇一七年三月まで、石巻北高飯野川校地内の仮設校舎で教育活動がおこなわれた。新設校となった二〇一七年四月に旧大須小学校の校舎に移転し、同年八月に新築された現校舎に移転した。

二、こども芸術カンパニー「OGATSU x」の背景、目的、対象と体制及び活動内容

(一) 背景

本活動を開始した二〇一六年当時、旧雄勝小学校の子ども達は、雄勝町から約二十キロ離れた内陸部にある仮設校舎での学校生活を余儀なくされていた。五、六年生は、六年生が東日本大震災の年に入学し、五年生は未就学であったが、雄勝町で学校生活をおくっておらず、ふるさとであるはずの雄勝町のことをほとんど知らない状況であった。

雄勝町に完成する新校舎への移転を翌年度に控え、五、六年生の子ども達が総合的な学習の時間を利用して雄勝町の歴史や産業を学ぶと共に、仮想の会社を立ち上げ、地域資源を活用したものづくりの可能性についてこども芸術の

村に打診したことが契機となり活動が開始された。

(一) 目的

本活動の目的は、次の三つである。一つ目は、子ども達のアイデアを形にして販売する仕組みを、学校、地域住民、行政、地元の芸術家や職人等の専門家、ギャラリスト等と共に組み立てること。二つ目は、学びや遊びの延長線上に、子ども達によって開発された商品による産業振興や観光振興等の地域活性化を位置付け、子ども達に対して、ものづくりを起点とした社会参画の機会を提供すること。三つ目は、子ども達が、地域資源の再発見やそれらを用いた創造によって生業が生まれることを体験し、子ども達の将来の職業選択の幅を広げることである。

(二) 対象と体制

本活動は、主に雄勝小学校の五、六年生を対象に、「こども芸術の村」プロジェクト（村長：松井利夫／京都造形芸術大学教授）、雄勝小学校（校長：菅原美樹）、雄勝町波板地区会（会長：鈴木紀雄）、地元の芸術家や職人等の専門家、地域住民の方々と協働で実施された。

(四) 活動内容

本活動では、二〇一六年度及び二〇一七年度に実施した「ものづくり」のフェーズと、二〇一八年度に実施した「まちづくり」のフェーズに大別することができる。各フェーズでは、対話と体験によるプロセスを重視し、地域資源を活用した「ものづくり」から、雄勝の魅力を広め伝える「まちづくり」へと活動の領域を広げてきた。各フェーズにおける活動内容を整理すると、次の通りである。

「ものづくり」のフェーズ

- ・ 企画（製品の目的、ターゲット設定、ネーミング等）
- ・ 調査（産地訪問、視職人による講義、石切り場見学、硯制作体験、スレート加工体験等）
- ・ 試作・開発（雄勝石粉の配合量の検討、形状の検討等）
- ・ モニター調査・フィードバック

- ・ 量産

- ・ 広報プロモーション（CMづくり）

- ・ 販売体験（価格設定、売り場計画、POP制作、販売体験等）

「まちづくり」のフェーズ

- ・ 石巻市内及び仙台市内におけるリレー形式による「ほつてえ皿制作体験ワークショップ」の開催
- ・ ほつてえ皿の実店舗での委託販売

三、活動の変遷（二〇一六年度～二〇一八年度の活動について）

(一) 二〇一六年度の活動

・ 全体概要

名称：こども芸術カンパニー二〇一六「OGATSU7(カン)」

対象：旧雄勝小学校五、六年生（合計七名）

活動：こども達が、地域資源を活用した商品開発をおこなう仮想の会社「こども芸術カンパニーOGATSU7」を立ち上げ、企画、現地調査、試作・開発、モニター調査をおこなった。ワークショップ全四回。

・ 第一回 テレビ会議

日時：二〇一六年九月一日（火） 一三：三〇～一四：〇〇

場所：テレビ会議（旧雄勝小学校、こども芸術の村@仙台、京都造形芸術大学）

講師：松井利夫（陶芸家・京都造形芸術大学教授）

内容：石巻市、仙台市、京都市の三地点をつないだテレビ会議。子ども達は、四月から総合的学習の時間を利用して雄勝町のことを学んでいる。雄勝石を使って何かものづくりができないか？と考えている。雄勝石を活用した新しい商品開発に向けたミーティングをおこなった（写真1）。

・ 第二回 産地訪問・調査

日時：二〇一六年一〇月一日（木） 九：〇〇～一四：三〇

場所：波板地域交流センター「ナミイタ・ラボ」（宮城県石巻市雄勝町分浜字波板

一四〇―一

講師：高橋頼雄（雄勝硯生産販売協同組合）、鈴木紀雄（雄勝硯職人・波板地区会長）
内容：雄勝石の産地を訪ね、石切り場の見学（写真2）や石割り体験（写真3）等の現地調査をおこなった。企画会議では、「雄勝町のが身の回りにあるようにしたい」といった意見が出た。また、石という固い素材で自分達に何ができるのか課題となり、解決策として、硯制作の際に雄勝石の粉を粘土に混ぜてみるようになった。

・第三回 造形・試作

日時：二〇一六年一月二一日（月） 九：〇〇～一二：二〇

場所：旧雄勝小学校仮設校舎（宮城県石巻市相野谷五味前上四〇）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）、松井利夫（陶芸家・京都造形芸術大学教授）
内容：「雄勝の家庭には必ずある」と言われるようなものをつくることを目標に、粘土と釉薬に雄勝石粉を混ぜ（写真4）（写真5）、日々の暮らしの中で使える器の試作をおこなった。試作品の中に、雄勝湾でとれた特産品のホタテ貝の殻を利用してデザインしたお皿があり、後に「ほってえ皿」の原型となるアイデアが生まれた（写真6）。

・第四回 施釉・焼成

日時：二〇一六年二月一九日（月） 九：〇〇～一四：四五

場所：旧雄勝小学校仮設校舎（宮城県石巻市相野谷五味前上四〇）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）、松井利夫（陶芸家・京都造形芸術大学教授）
内容：前回制作した器の施釉、焼成をおこなった。また、OGATSU7メンバーが考案したアイデアをベースに試作した鉢（ホタテ貝の殻を三枚合わせた形状）（写真7）に施釉した。完成した鉢を旧雄勝小学校の隣地にある仮設住宅の住人に贈呈し、実生活の中での使用感についてアンケート調査を実施した。

(二)二〇一七年度の活動

・全体概要

名称：こども芸術カンパニー二〇一七「OGATSU X (チン)」

対象：雄勝小学校五～六年生（合計十名）

内容：二〇一七年度は、こども芸術の村と雄勝小学校が連携協定を締結し、昨年度の活動の延長線上に、ほってえ皿の改良、量産、広告プロモーション（雄勝のCMづくり）、販売体験会を実施した。実施回数は、ほってえ皿ワークショップが全六回、雄勝のCMづくりワークショップが全四回である。

◇ほってえ皿ワークショップ◇

・第一回（ほってえ皿） 活動計画

日時：二〇一七年七月五日（水） 九：三〇～一二：二〇

場所：旧大須小学校（宮城県石巻市雄勝町大須字大須二五一二）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）
内容：三輪田窯の亀山先生から陶芸家がおこなう仕事内容や、陶器のろくろ以外の作り方を学んだ（写真8）。昨年度試作した鉢は難易度が高いため、今年度の活動では、誰でも制作できるように石膏型を使用することとなった。

・第二回（ほってえ皿） 現地調査・成型

日時：二〇一七年七月一八日（火） 九：〇〇～一四：三〇

場所：ナミイタ・ラボ（宮城県石巻市雄勝町分浜波板一四〇一）

講師：高橋頼雄（雄勝硯生産販売協同組合）、鈴木紀雄（雄勝硯職人・波板地区会長）、亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）
内容：雄勝石の産地を訪ね、石切り場の見学、雄勝硯の制作や墨すり等を体験した。また、雄勝で獲れたホタテ貝の殻の石膏型（写真9）を使ったほってえ皿の成型をおこなった（写真10）。

・第三回（ほってえ皿） お披露目・施釉

日時：二〇一七年九月一日（木） 九：三〇～一二：〇〇

場所：雄勝小学校（宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二）

対象：雄勝小中学校児童及び祖父母、地域住民（合計約八〇名）
講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）

内容…これまで子ども達だけでおこなっていた活動をより多くの人に知ってもらうため、雄勝小中学校の全校生徒と、保護者や祖父母、地域住民の方々と一緒にほつてえ皿の成型と釉薬掛けをおこない、ほつてえ皿を通じた世代を超えた交流がうまれた(写真11)。

・第四回(ほつてえ皿) 販売計画

日時…二〇一七年一月七日(火) 九:〇〇～一:三〇

場所…雄勝小学校(宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二)

講師…倉茂麻子(こども芸術の村事務局スタッフ、グラフィックデザイナー)

内容…ほつてえ皿の販売体験会に向け、完成したほつてえ皿の選別や価格設定、売り場の検討などをおこなった。

・第五回(ほつてえ皿) 続・販売計画

日時…二〇一七年一月二一日(火) 九:〇〇～一:〇〇

場所…雄勝小学校(宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二)

講師…倉茂麻子(こども芸術の村事務局スタッフ、グラフィックデザイナー)

内容…前回に引き続き、ほつてえ皿の販売に向けた売り場のディスプレイ計画について、実際にほつてえ皿を並べたり、ポップを制作したりしながら具体的に検討をおこなった。

・第六回(ほつてえ皿) 販売体験会

日時…二〇一七年二月二日(土) 八:三〇～一二:三〇

場所…道の駅「上品の郷」(宮城県石巻市小船越字二子北下一)

講師…なし

協力…道の駅「上品の郷」

内容…宮城県石巻市の道の駅「上品の郷」にて、ほつてえ皿の販売体験をおこなった。雄勝小学校OB・OGや、津波被害の為に移転を余儀なくされた元雄勝町の方が来場し、約一三〇枚のほつてえ皿を午前中の三時間で完売した(写真12)(写真13)(写真14)。

◇雄勝のCMワークショップ◇

雄勝のCMは、「ものづくり」のフェーズにおける広告プロモーションの一つとして、ほつてえ皿の特長や雄勝町の魅力を広く発信するために制作された。CM制作を通して、子ども達は、自分達がつくった「ほつてえ皿」の成り立ちや思い、さらには被災した地域の暮らしの現状や希望を意識し、想像し、みんなの意見を集約、編集するという高度な創造力を養うことができる。ほつてえ皿の開発にも同様のことが言えるが、映像という異なる手段、アプローチによってアウトプットすることで、子ども達が新たな気付きや学びを得ることができるのではないかと考えた。

・第一回(雄勝のCM) 企画

日時…二〇一七年九月二二日(金) 九:〇〇～一四:三〇

場所…雄勝小学校(宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二)

講師…三浦誠(映像ディレクター、株式会社ルドルフ)

内容…雄勝のCM制作に向けた企画会議。活動の軌跡を振り返り、各自が漠然と感じていることを言語化し、共有した(写真15)。「雄勝は良い所だ。」と言うが、実は「良い」と思う部分が異なること、大勢に雄勝に遊びに来て欲しいが、自分自身が十年後に雄勝に住んでいるかは分からないことなど、お互いの思いや将来観の違いが明らかになった。

・第二回(雄勝のCM) 絵コンテ

日時…二〇一七年一〇月五日(木) 一三:三〇～一五:三〇

場所…雄勝小学校(宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二)

講師…三浦誠(映像ディレクター、株式会社ルドルフ)

内容…第三十三回東北地区へき地教育研究大会宮城(石巻)大会の公開授業として、「海」と「暮らし」の二つのグループに分かれ、CMづくりの土台となる絵コンテづくり(写真16)をおこなった。

・第三回(雄勝のCM) 編集

日時…二〇一七年一月七日(火) 一一:三〇～一五:三〇

場所…雄勝小学校(宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二)

講師：三浦誠（映像ディレクター、株式会社ルドルフ）

内容：前回制作したラフの絵コンテを再構成し、最終形に向けた編集やBGM選びをおこなった。

・第四回（雄勝のCM） ナレーション

日時：二〇一七年一月二一日（火）一〇：〇〇～一二：〇〇

場所：雄勝小学校（宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二）

講師：三浦誠（映像ディレクター、株式会社ルドルフ）

内容：全員で編集した一つのCM映像に合わせて、子ども達各自のナレーションの収録（写真17）をおこない、十本のCMとおまけ一本を制作した。

（三）二〇一八年度の活動

・全体概要

名称：こども芸術カンパニー二〇一八「OGATSU x（エックス）」

対象：主に雄勝小学校五～六年生（合計九名）

内容：こども芸術の村と雄勝小学校及び雄勝中学校が連携協定を締結し、全五回の活動を実施した。石巻市内の仮設住宅を訪問したり、地域住民の方々を学校にお招きしたりと、様々な場所で開催する世代の方々と、「ほってえ皿」をバトンに見立てたりレー形式による「ほってえ皿制作体験ワークショップ」をおこない、雄勝の魅力を広め伝える「まちづくり」へと活動の幅を広げた。

・第一回 ほってえ皿リレーワークショップ、スタート！

日時：二〇一八年五月二九日（火）一三：三〇～一五：三〇

場所：雄勝小学校（宮城県石巻市雄勝町大浜字小滝浜二番地二）

対象：雄勝小学校の子ども達（合計二名）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）

内容：「ほってえ皿制作体験ワークショップ」をリレー形式でおこなう最初のワークショップ。

・第二回 仮設住宅でほってえ皿リレー

日時：二〇一八年七月九日（日）九：一〇～一一：四五

場所：宮城県石巻北高等学校飯野川校（宮城県石巻市相野谷字五味前上四〇）

対象：雄勝小学校四～六年生、雄勝中学校一～三年生、仮設住宅にお住いの方々（合計四一名）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）

内容：雄勝小中学生が、石巻市内の仮設住宅を訪れ、ほってえ皿リレーワークショップをおこなった。この仮設住宅の隣地が、二〇一七年三月末まで旧雄勝小学校の仮設校舎があった場所である。OGATSU7やOGATSU xだった中学生からは、仮設校舎での学校生活を懐かしむ声が聞かれ、仮設住宅の住人との再会を喜ぶ姿が見られた。

・第三回 祖父母参観交流会でほってえ皿リレー

日時：二〇一八年九月一四日（金）九：〇〇～一二：二〇

場所：雄勝小学校（宮城県石巻市雄勝大浜字小滝浜二番地二）

対象：雄勝小学校児童及び祖父母、地域住民（合計約六〇名）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）

内容：雄勝小学校の子ども達の祖父母や地域住民の方々をゲストとして学校にお招きして授業をおこなう「祖父母参観交流会」の一環として、ほってえ皿リレーワークショップをおこなった。

・第四回 せんだいメディアテークでほってえ皿リレー

日時：二〇一八年十一月二五日（日）一〇：〇〇～一二：〇〇

場所：せんだいメディアテーク 五階ギャラリー（宮城県仙台市青葉区春日町二

一）

対象：原則小学生および中学生（合計一〇〇組）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）

内容：「こども芸術の村五周年記念展―スイスからの贈り物―」の会期に合わせ、宮城県仙台市にあるせんだいメディアテークにて、ほってえ皿リレーワークショップを開催した（写真18）（写真19）。開場前から行列ができ、息つく暇もないほどの状況であったが、子ども達は息の

合った連携を見せて乗り切った。また、展覧会期間中、せんだいメ
ディアテーク一階にある「KANERI Museum Shop 6」において、雄
勝の地域住民の方々が制作した「ほってえ皿」の委託販売をおこな
った（写真20）。

・第五回 販売体験会

日時：二〇一八年二月一日（土）八：三〇～一二：一五

場所：道の駅「上品の郷」（宮城県石巻市小船越二子北下一）

対象：雄勝小学校四～六年生（合計八名）

講師：亀山英児（陶芸家・三輪田窯窯主）

協力：道の駅「上品の郷」

内容：宮城県石巻市の道の駅「上品の郷」にて、今年度の活動でつくりた
めたほってえ皿の販売体験会をおこなった。昨年度よりも品質が向
上し、価格も百円アップの一枚五百円に設定したが、午前中の約三
時間で約一三〇枚を完売した。

おわりに

東日本大震災からの復興の原点とは、自分達の現状の認識に始まり、手にし
たものや能力で何を成し、どう社会に向き合うのかという姿勢や意欲を涵養す
ることにあると考えている。

雄勝小学校の子ども達と共に三年間にわたり継続してきた、こども芸術カンパ
ニー「OGATSU x」の活動では、子ども達が、ものづくりを通して、地域の歴
史や文化、風土を学び、専門家や地域住民の方々の協力を得ながら、雄勝町の
地域資源である雄勝石を利活用した新しい特産品「ほってえ皿」を開発し、販
売までをおこなうことができた。また、ほってえ皿を用いて、雄勝町の魅力を
広く伝える活動を展開し、子ども達の社会的自立や社会参画の力を育む一助と
なった。

こども芸術の村では、今後も次の二つの観点から本活動を継続していきたい。
一つ目は、三年間の活動の延長線上に、ブランドロゴデザインやパッケージデ
ザイン、お皿の模様のデザイン等のデザイン教育と本活動のブランディングを
おこなうこと。二つ目は、子ども達が研究・開発をおこなった商品を地域で製

造・販売し、それにより生み出された経済的価値を子ども達の教育に還元させ
る、地域経済と教育を循環させる持続的なエコシステムの構築を試みることで
ある。

註

(1) 「こども芸術の村」プロジェクト（村長：松井利夫／京都造形芸術大学教授）は、京
都造形芸術大学がスイスにある財団「日本の子供たち」（創設者：ティエリー・
セルヴァン、カロリーヌ・カファン）の助成を受け、東北地方の子どもを対象に企
画・運営している芸術教育支援事業である。「つくる、つどく、つなぐ」
をコンセプトに掲げ、二〇一四年度から二〇一八年度までの五年間で、約
六十回のワークショップを開催し、延べ約一五〇〇名の子ども達が参加し
た。また、二〇一八年十一月二三日（金・祝）～二五日（日）には、せんだい
メディアテークを会場に「こども芸術の村五周年記念展―スイスからの贈
り物―」を開催し、小学生の親子や教育関係者等を中心に、一〇八名が
来場した。

- (2) <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20302500/d0010/d0020/enkaku3.pdf>
- (3) <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/con/20101000/0013/20160510143922.html>
- (4) <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/con/20101000/0014/20170509152013.html>
- (5) <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/con/20101000/0014/20180509100703.html>
- (6) <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20302500/d0010/d0020/simsaityokugonjoukyou.pdf>

引用文献及び参考文献

雄勝いしのわプロジェクト『おがついしのわノート』、東北工業大学、二〇一六
年。



写真3 石割り体験



写真2 石切り場の見学



写真1 テレビ会議の様子



写真6 ホタテ貝の殻を使ったデザインの検討



写真5 雄勝石粉の配合率による仕上りの違いを確認



写真4 粘土と雄勝石粉を混合

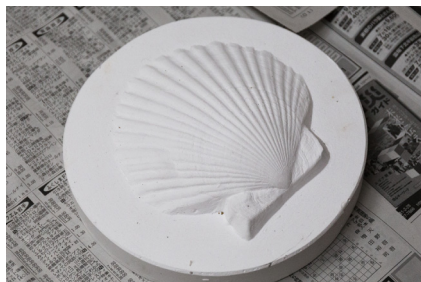


写真9 雄勝で獲れたホタテ貝の殻の石膏型



写真8 陶器の様々な作り方を学ぶ



写真7 試作品の鉢



写真12 完成したほってえ皿



写真11 ほってえ皿を通じた世代を超えた交流



写真10 脱型したほってえ皿



写真15 活動を振り返り、思いを言語化、共有する



写真14 販売体験会の様子



写真13 販売体験会の様子



写真18 ほってえ皿制作体験ワークショップの様子



写真17 ナレーションの収録



写真16 絵コンテの検討



写真20 ミュージアムショップでの販売の様子



写真19 ほってえ皿制作体験ワークショップの様子